

施設生活から自立生活を決めたこと

ピアカンと私のエンパワーメント

ピアカン講演会@京田辺
2017.12. 3

CIL Arc-Spectrum
加古雄一

今日おはなしすること

- ① 自己紹介（障害・これまでの経歴など）
- ② 障害発覚、施設に入る経緯とその暮らしは？
- ③ 施設での暮らしが私にもたらしたものの
- ④ ピアカンと出会って、変わったものの
- ⑤ 今だから思うこと

① 自己紹介（障害・これまでの経歴など）

加古雄一

1976年9月16日生

愛知県東海市出身

現在、京都市中京区在住

自立生活歴17年目

自立生活センターアークスペクトラム 事務局長



大まかな生活歴

- 5歳 障害発覚（進行性筋ジストロフィー症）
- 6歳～ 三重の国立病院へ入所（13年）
- 19歳～ 就活の一環で、職業能力開発校へ（1年）
- 20歳～ 実家に戻って家族との生活（4年）
- 24歳～ 名古屋で自立生活（2年半の一般就労）
- 26歳 自立生活運動に出会い、参加する。
- 30歳～ 京都市に引っ越し、CIL設立 ～現在

② 障害発覚、施設に入る経緯とその暮らしは？

→ 身体の違和感 ～ 障害の発覚

→ そのとき ～ 私、親、祖父母、家族の思いは？

→ 障害が未知のものではなかったが…

⇒ 叔父の存在 ～ 身近なモデル

⇒ 施設への入所が決まった。本音は？

施設での暮らしはどんなものか？

- 病院と生活の場、学校も敷地内に併設
- 起床～就寝まで1日の全てが決められた生活
- それは施設側の都合で決められたものだった
- 自由も外出もままならない閉鎖されたところ
- 自己主張するも … あきらめパワーレス

子供ながらに、

このまま施設で暮して死ぬのかなと思った。

そんな中…

→ 15歳のとき、自立生活をしている人が来た！

→ その後、先輩が自立生活をはじめた。

→ 自分の人生自分で決めて良いんだ！と知る。

③ 施設での暮らしが私にもたらしたものの
… その後の暮らしに多大な影を生じさせた

- ・ 親や家族との深い溝

- ・ 施設や施設の職員に対する負の気持ち

- ・ そして繰り返しうけた抑圧や虐待の内面化

⇒ 疑心、不安、諦めに支配されていた

⇒ 生きる気持ちに障害をもってしまった状態

でも…

憎しみや怒りをパワーに変えていくのでは壊れてしまう。

それらを持ち続けることが、捨てられないことが自ら生きづらくさせていることに気がついた。

それを気づかせてくれたもの

⇒ ピアの存在とピアカウンセリングだった。

④ ピアカンと出会って、変わったもの

セッションを繰り返す中で

自らの傷ついた感情、押し込んできた感情を

知って、開放し、本当の姿が見えてきた。

→ 傷ついたことと今のごことは別のごこと

→ 親のごこと施設のごことを再評価

- 傷や社会にある抑圧のシステムを知った。
- そして自ら傷ついたままではいなくなつた
- 日々を生きづらくさせているものの一番の要因は、自らの心でもあった。
- 持ち続けなくても良い重荷を手放せた。
- 自分に自信をもてるようになった。
- 今では生活に欠かせないツールになった。

⑤ 今だから思うこと

施設は国の障害者政策がもたらしたものの

私に起きた事も私固有のものでは無かった

社会との隔離を生み出した結果は…

後を絶たない虐待事件、相模原の障害者殺傷事件

⇒ 施設がそこにあるから起こってきたこと

⇒ 一人ひとりが地域で暮せていたら起らなかった

- 障害のある人の地域移行は…
- 障害者権利条約にも定義
- そもそも障害者総合支援法にも定義されている
- ⇒ 障害福祉計画（平成18年～）とその理念
 1. 障害者等の自己決定と自己選択の尊重
 2. 市町村を基本とした身近な実施主体と障害種別によらない一元的な障害福祉サービスの実施等
 3. 地域生活移行や就労支援等の課題に対応したサービス提供体制の整備

だけど、施設の入所者は減っていない。

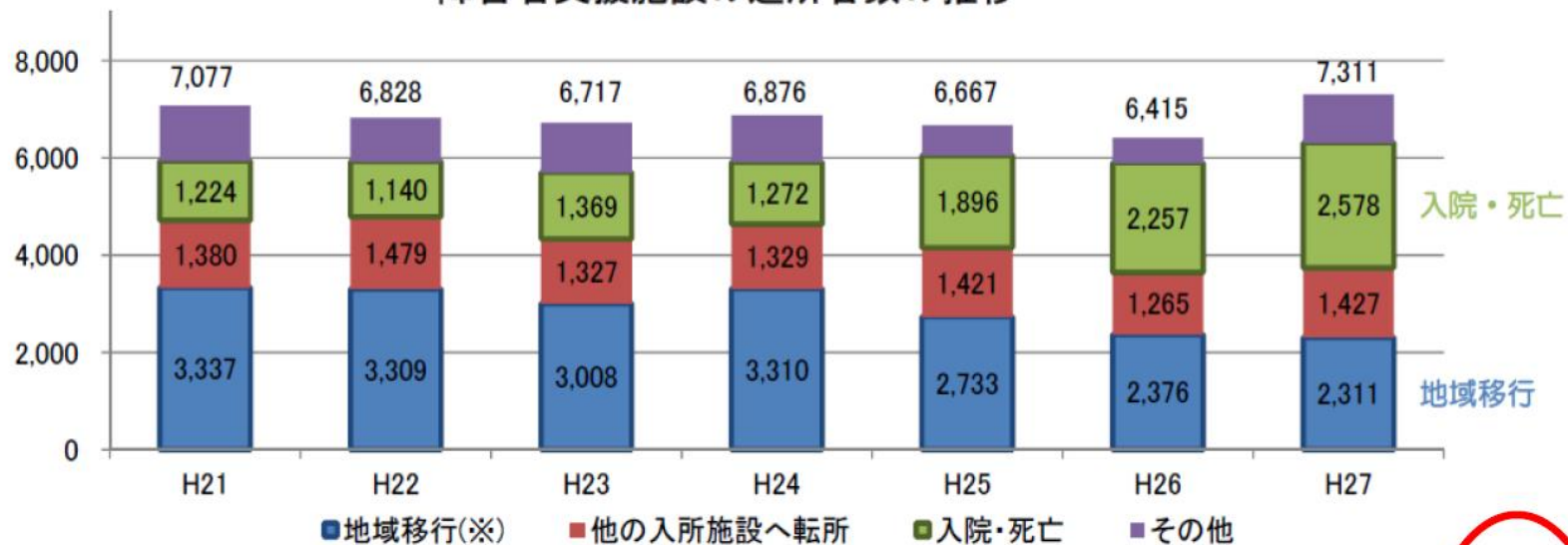
それは、国の会議の資料でも明らか。

社会保障審議会障害者部会（2016年11/11）

第5期障害福祉計画、「障害福祉計画及び障害児福祉計画に係る成果目標及び活動指標について」

⇒ 次項の表を見てください。

障害者支援施設の退所者数の推移



	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
総数	7077	6828	6717	6876	6667	6415	7311
就職	541	393	418	642	500	438	404
家庭復帰	1511	1448	1201	1153	1243	1016	966
他の社会福祉施設等へ転所	2665	2947	2716	2844	2411	2187	2368
うち自宅・GH・CH	1285	1468	1389	1515	990	922	941
入院	400	353	408	394	607	775	880
死亡	824	787	961	878	1289	1482	1698
その他	1136	900	1013	965	617	517	995

施設退所者7,300人の内訳
 実質的な地域移行者数は約1,000人。
 約13万人いるとされる入所者の0.8%に留まっている。

平成32年度末時点で平成28年度末の施設入所者数の9%を地域移行させるという数値目標を発表。

このように…

第3期（平成24～26年） → 30%

第4期（平成27～29年） → 12%

というように大きく減少

要因は、入所者の障害重度化・高齢化と入院・死亡が増えたことの説明があったが…

つまり、地域移行の仕組みだったということ。

障害福祉計画の理念にもある、身体障害者の自立生活・地域移行は「自己選択・自己決定」というに基づいて一定の前進はあったが…

⇒ 現に施設に残っている13万人の入所者は、その理念の捉え方によって難しくなっている。

⇒ 障害者権利条約を読み解けば、自己決定の為の支援や表現には幅がある。

⇒ 知的や重度重複障害のある人の自立生活を考えようとした時、自己決定の捉え方が重要。

私自身も私の家族も選ばざるを得なかった施設

私の願いは、

その施設を選ばなくても暮らせる社会があること

戦わなくとも安心して暮らせる社会があること

それを十分に支える制度があること

ご清聴ありがとうございました。

ピアカン講演会@京田辺
2017.12. 3

CIL Arc-Spectrum
加古雄一